

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21330126

研究課題名（和文）

不平等と逸脱行動－社会関係資本、不安感を媒介とする自殺・犯罪率の因果構造分析

研究課題名（英文）

Causal analyses of inequality, sociopathological behaviors and social capital

研究代表者

与謝野 有紀（YOSANO ARINORI）

関西大学・社会学部・教授

研究者番号：00230673

研究成果の概要（和文）：

本研究では、自殺、犯罪率と社会関係資本、不安感の関係を解明するために、兵庫県下における 1800 名を対象とした面接調査を実施し、9 区市町より 1080 票を回収した。この調査データと、自殺、犯罪率の公開されたデータとの地域比較から、以下が明らかになった。

1) 自殺は生活満足、サポートネットワーク、近隣への信頼と関係している。2) 生活満足、サポートネットワーク、近隣への信頼の規定因は、人口によって大きく異なる。3) 都市部では経済要因の影響が強く、人口規模が小さいほど近隣関係が強く影響し、因果関係は複雑化する。

研究成果の概要（英文）：

In this research, we conducted an interviewing survey to elucidate relationships between sociopathological phenomena and social capital. 1800 adults living in Hyogo prefecture were randomly sampled and 1063 people answered. The data from this survey provided three new insights. 1) The suicide rates related closely to people's satisfaction, the amount of support network and trust for neighborhood. 2) The effects of these three main causal variables on the suicide rates differed by a population size of each area. 3) In metropolitan areas, economical factors strongly affected the suicide rate, while a neighborhood relationship played a main role in local areas.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2010 年度	7,100,000	2,130,000	9,230,000
2011 年度	2,100,000	630,000	2,730,000
年度			
年度			
総計	11,100,000	3,330,000	14,430,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：自殺率、社会的信頼、サポートネットワーク、幸福感、地域比較、社会病理現象、社会関係資本

1. 研究開始当初の背景

(1) 社会的信頼をめぐる研究は、「社会的信頼はいかにして生成されるか」、および「社

会的信頼は、社会に対してどのような機能を果たすか」の二面から研究されてきた。階層と社会的信頼をめぐる主な議論は「階層的な

不平等が社会的信頼を破壊する」というものであり、逆にいえば、「社会的信頼が生成・展開の必要条件は、階層的平等がある程度確保されていることである」というものである。一方、これとは別に、社会的信頼が階層と相互作用をもちながら、人々の行動、意識に大きな影響をあたえることも、種々明らかにされはじめている。特に、公衆衛生学の分野では、階層論の理論枠と分析知見を援用しながら、「先進国において、階層的な不平等こそが病理現象の発現率に強く影響しており、貧困が病理現象の主要因とはいえない」、「階層的な不平等の病理現象への影響は、社会的信頼を媒介にしている可能性が高い」、「社会的信頼を維持することが、人々の健康にたいしてプラスの影響を及ぼす」などが明らかにされてきている。このように、欧米を中心として、社会階層と社会的信頼が、病理、社会病理現象におよぼす影響が盛んに検討されてきた一方、本邦におけるこのような枠組みでの分析はいまだ数が多いとはいえない。

(2) こうした本邦における研究の現状に加え、1998年以來、自殺数は3万人を超える状態が連続しており、その背後に階層、信頼の問題がある可能性が考えられ、この点を計量的に、明確に明らかにすることが喫緊の課題となっていた。

2. 研究の目的

(1) 本研究の第一の目的は、欧米で確認されてきた「社会関係資本が、不平等が社会病理的現象に影響するプロセスを媒介する」という理論を実証的に検討することである。このような課題設定をするのは、単に、欧米の結論の追試を行いたいためではない。自殺率が先進国の中でもきわめて高く、この14年間に40万人以上が自殺している本邦の現状において、欧米で確認されてきたプロセスがどのように作動しているかを識別することが、自殺に対する国を挙げた取り組みに対して、実践的な意味をもつと考えるからである。また、このように自殺率が高まっている一方で、殺人数は、戦後最低を記録しており、一概に、社会病理現象とまとめて議論することのできないような、異なるメカニズムがあることが想定される。このように、実践的にも、理論的にも、こうした研究の意義が高いと考えられるにも関わらず、これまでのところ、このような研究が日本で展開された例はほとんどない。

(2) 本プロジェクトの目的の2番目は、独自に、社会的信頼を含むデータベースを構築することである。というのも、前述(1)の問題意識から計量的な研究を展開しようとする、すぐにデータベースの欠如という問題に直面するためである。自殺、犯罪率のデータは、ある程度ネット上などでも公開されてい

るが、二次医療圏単位で特定できるデータは年次別に整理されておらず、また、社会的信頼にかかわるデータはほとんどないに等しい。また、自殺率については、自殺予防総合対策センターが集計したものが年次別、市区町村別に公開されているが、その推計値は、公開されている方法にしたがって再計算しても残念ながら再現せず、この点の確認からデータベースの整理が必要となっている。さらに、自殺率については、性別、年齢別のデータを1960年までさかのぼって整理するためには、厚生労働省の原票にあたるしか現在のところデータ収集の方法がなく、これらのデータの整理も重要な研究課題となっている。

(3) 自殺、犯罪の背景にある地域の社会関係資本を包括的に対象とした調査を全国単位で実施するには、前例がすくないこともあり、コスト・リスクの両者が大きい。そのため、今回は、都市部から過疎地域までを一県内に包含する兵庫県を対象に面接調査を実施し、独自のデータをあつめることで検討する。このように対象を限定することで、フィールドワークと並行した研究が可能となる。ただし、こうした一県の結果を、他県に外挿して適用してよいかを確認するために、地域調査と並行して、全国の都道府県単位のデータ収集と高度な統計解析を行い、兵庫県の位置を相対化し、かつ、全国的な知見への一般化を目指す。

3. 研究の方法

(1) 兵庫県下の区市町から、人口規模、人口構成、職業構成、自殺率、犯罪率において対照的な区域を9区域選択し、この地域から、先人男女をランダムサンプリングして、面接調査を行う。各地区200名を割り当て、5割以上の回収率をめざし、900ケースを最低確保するように目指す。各地区100名程度について、信頼感、ネットワークサポート、生活満足などの指標の平均をとり、社会病理の発生率とこれらの平均の関係を検討する。

(2) また、地点間比較についてはケースがすくないため、そこで得られた知見を聞き取り調査などでフォローする。

(3) また、これらとは別に、都道府県単位の自殺率データを、厚生労働省より独自に収集し、パネル、クロスセクショナルデータの同時分析モデルを適用することで、社会病理現象の発生の日本全国に対する一般モデルの識別を試みる。

4. 研究成果

(1) 兵庫県下の9地域（東灘区、長田区、西宮市、丹波市、多可町、姫路市、赤穂市、宍粟市、新温泉町）から、1800名を多段抽出によりランダムサンプリングし、面接調査を

行って結果、1063 ケースを回収し、回収率は、近年の面接調査としては高い 59.1% となった。長田区を除き、各地域とも 100 ケース以上を確保しており、地域間比較の基礎となる信頼データの平均をもとめ、自殺率との関連性を詳細に検討した。この結果、近隣への信頼感、情報サポートネットワークの量、生活満足度が男性の自殺と関連していることが明らかになった(図 1 参照)。

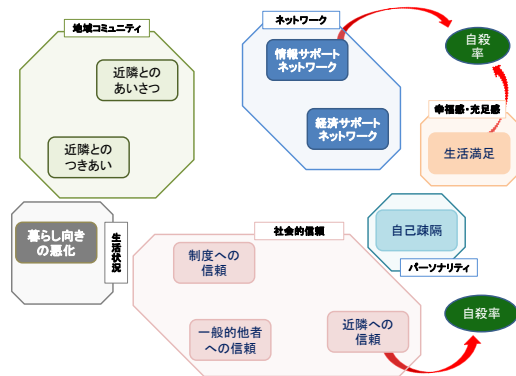


図 1 マクロ分析より識別された自殺を規定する因果

これらをもとに、情報サポートネットワーク、生活満足、近隣への信頼に対する共分散構造分析を行った結果、都市部では、経済的な状況がこれらに影響しているのに対し、規模が小さい郡部では、近隣ネットワークがより重要な役割をはたしていることが明らかになった。これらから、都市部では、経済的状況の改善が自殺を抑止する効果を持つ一方、郡部では近隣ネットワークをはじめとする複合的なサポートが必要なことが推測される。この結論は、図 2 の独自に作成した全国市区町村の 2005 年における、失業率と自殺率(自殺 SMR) の間の関係と一貫したものである。

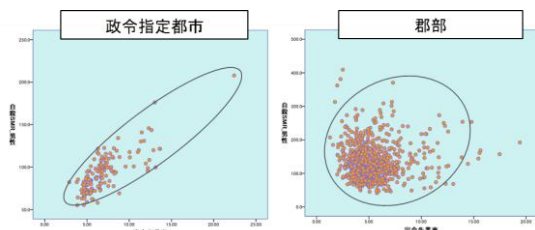


図 2 失業率と自殺率(政令指定都市、郡部：2005 年)

(2) また、厚生労働省における 30 年にわたる都道府県別、年齢別、性別の自殺数データにもとづく計量分析は、高齢者の自殺率が低下している一方、30 代前半までの男性の自殺率が上昇する傾向があることを示している。1998 年以降の高い男性の自殺率は、全国総じて、自殺の若年層へのシフトによって維持されている可能性が高いことが明らかになった(図 3)。

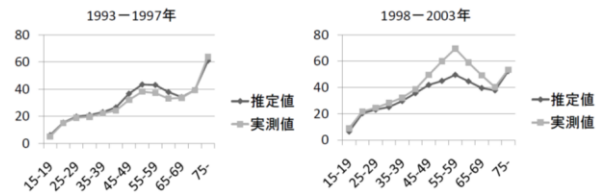


図 3 年齢別自殺率の年次推移

また、「若い年齢層で、コホートサイズが大きい場合、自殺率は上昇する」という Easterlin 仮説が成立したことから、これらの基礎に社会関係資本の低下と相対的剥奪の進展の二つのプロセスが強く影響している可能性があることが示された。

(3) これらの分析結果をもとに、これまで不平等指標で代替されてきた相対的剥奪感を直接に測定する試みをも展開し、インターネット調査により兵庫県下で、2000 ケースを収集した。この分析の結果、剥奪過程を測定する意識指標の構成がなされた。

また、このインターネット調査の理論的基礎として、不平等指標とマクロな相対的剥奪を測定する指標の特性を数理的に検討した。「高坂=石田=濱田の定理」を、「パレート優位、かつ不平等度が軽減するような場合においても、マクロな相対的剥奪度が上昇するという事例が出現する」という形で整理し、この整理にもとづいて、不平等度と相対的剥奪度を同時に投入した自殺率の回帰分析を実施し、相対的剥奪度こそが自殺率に影響することを初めて明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 与謝野有紀: “社会的福利に対する相対的剥奪度のマクロ的影響” 関西学院大学社会学部紀要 査読無 114, 11-21 (2012)
- ② 与謝野有紀: “まちづくりと信頼システム: 安全・安心のまちづくりから、信頼のまちづくりへ” 商業施設 査読無 363 号, 27-30 (2011)
- ③ 与謝野有紀、林直保子: “格差と信頼” 関西大学社会学部紀要 査読無 42(1), 77-91 (2010)

[学会発表] (計 6 件)

- ① 与謝野有紀: “社会的信頼、格差、自殺率の連関構造の分析—兵庫県下 9 区市町における調査データの計量分析—” 第 84 回 日本社会学会, (2011.09.17) .関西大学千里山キャンパス
- ② 高坂健次、石田淳、浜田宏: “相対的剥奪の

パラドックス" 第51回 数理社会学会大会.
(2011.03.08). 沖縄国際大学

- ③与謝野有紀、紺田広明:"自殺率のベイズ推定モデルの検討-既存推計値の修正と新推計法の提案" 第51回 数理社会学会大会.
(2011.03.08). 沖縄国際大学-
- ④与謝野有紀:"逸脱行動と社会的資源の関連構造分析" 実験社会科学研究会.
(2011.02.18). 東京工業大学田町 CIC
- ⑤与謝野有紀:"社会学における数理社会学: その有効性の検証" 第50回 数理社会学会大会.
(2010.09.11). 獨協大学(招待コメンテーター)
- ⑥与謝野有紀:"格差、信頼とライフチャンス-自殺率と生活満足をめぐる" 「社会階層と健康」研究会.
(2010.06.25). 桜美林大学四谷キャンパス

[図書] (計2件)

- ①与謝野有紀:"斎藤、三隅編『現代の階層社会3 流動化のなかの社会意識』293-307頁"
東京大学出版会 400(2011)
- ②草郷孝好:"玄田・宇野・中村編『希望学4: 希望のはじまり』75-105頁"
東京大学出版会. 320 (2009)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

与謝野 有紀 (YOSANO ARINORI)

関西大学・社会学部・教授

研究者番号：00230673

(2) 研究分担者

高瀬 武典 (TAKASE TAKENORI)

関西大学・社会学部・教授

研究者番号：90187956

安田 雪 (YASUDA YUKI)

関西大学・社会学部・教授

研究者番号：00267379

高坂 健次 (KOSAKA KENJI)

関西学院大学・社会学部・教授

研究者番号：60027977

草郷 孝好 (KUSAGO TAKAYOSHI)

関西大学・社会学部・教授

研究者番号：30308077

(3) 連携研究者

なし